

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

21世紀を力強く生き抜く強くて思いやりのある人材を育成し、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

- 1 確かな学力を携えて、自己実現と社会に貢献できる多様な人材を育成する。
- 2 それぞれの夢に展望を持たせ、自らの力でそれを実現できる生徒を育成する。
- 3 他者の痛みがわかる、やさしく心豊かな生徒を育成する。
- 4 美化意識や規範意識を高く持ち、自己管理が出来る生活習慣を確立できる人材を育成する。

2 中期的目標

- 1 地域に根差した高校として、確かな学力を育成することでそれぞれの進路実現へ対応する。
 - (1) 進路目標をしっかりと意識し、アクティブラーニング等の手法を利用した「わかる授業、考える授業」をめざした授業改善に取り組む。
 - ア 相互授業公開や研究授業、中学校への授業見学、学校教育自己診断、授業アンケートなどを効果的に活用した授業改善に一層取り組む。
※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（平成28年度64%）を毎年引き上げ、平成31年度には70%にする。
 - イ 可能な範囲での進路目標ではなく、それぞれがより高い進路目標をめざす。
※国公立大学、公務員就職者などは少なくとも一人ずつ、難関大学、看護医療系学校（平成28年度16名）などの合格者は20名以上輩出する。
 - (2) 「ハートフルはいく専門コース」や地域交流・国際交流など本校の特色をさらに充実させる。
 - (3) HPや学校通信などにより、本校の教育活動とその成果を発信し、開かれた学校づくりを更に推進する。
 - (4) インクルーシブ教育システムの推進
高校生活支援カードを有効に活用するなど、障がいのある子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実を図る。
- 2 思いやりの心と体力の醸成
 - (1) 人の気持ちが理解できる人権教育を進める。
※対人関係に起因するトラブルの未然防止に努める。（平成28年度2件）
 - (2) 体力強化を意識した行事などを推進する。
※運動能力調査の結果を踏まえ、目標を設定する。
- 3 心安らげる安全で安心な学校づくり
 - (1) 規範意識をさらに醸成する。
 - ア 遅刻・早退・欠席等を減少させ、基本的な生活習慣を確立する。
※全学年年間遅刻件数（平成28年度11.7回/人・年、授業遅刻・トイレ退室等含む）を毎年徐々に減らし、平成31年度には5.0回/人・年にする。
 - (2) 美化意識を醸成し、清潔で整備された心地よい教育環境を実現する。
 - ア 日々の清掃活動の充実を図り、施設の維持管理や設備の更新に積極的に取り組み良好な環境をつくる。
※有志による清掃活動参加率（平成28年度14%）を毎年増やし、平成31年度には在籍生徒数の30%にする。
 - イ 火災だけでなく、地震や津波などを想定した防災教育を積極的に行い、防災グッズを少しずつ備えていく。
※定期的な防災訓練に加え、府や市の防災訓練などにも積極的に協力し、防災への意識を高める。
 - (3) 特別活動や生徒会活動を通じて自己有用感を醸成し、学校生活の充実と学校への帰属意識を高める。
 - ア 部活動やボランティア活動を通じて、集団の中で活動することの重要性を認識させる。
※部活動参加率（平成28年度43%）を引き上げ、平成31年度には50%とする。
 - (4) 学校組織力の向上を図る。
※SP会議（将来構想委員会）、学習発表会担当者会議、国際理解教育委員会、進学希望者支援委員会、フレッシュパーソンチューター会議などを充実させる。
- 4 人材の育成と管理
 - (1) 教職員の資質向上のため、授業改善を軸に、人権問題、教育相談など、必要に応じたテーマで講演会や研修を実施する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年1月実施分]	学校協議会からの意見
<p>●生徒アンケート</p> <p>1. 評価が高かった項目</p> <p>「よくあてはまる及びほぼあてはまる」という肯定的な評価が7割以上を占める項目は、自分のクラスは楽しい(86.8%)、自分は授業に集中して取り組んでいる(80.4%)、服装や頭髮の指導がきちんとされている(74.9%)、自分は校則やマナーを守っている(91.5%)、自分は教室・廊下・トイレの清掃をきちんとしている(77.3%)、教室・運動場などは授業の活動がしやすいように整備されている(74.9%)であり昨年度より数値が5%程度上昇した。また、10%程度上昇している項目は、学校は進路についての情報をよく知らせてくれる(71.7%)、文化祭や体育祭などの授業</p>	<p>第1回 6月29日(木)</p> <p>●平成29年度学校経営計画について</p> <p>1. 地域に根差した高校として、確かな学力を育成することでそれぞれの進路実現へ対応する。</p> <p>・「学力」は知識技能中心から問題解決型へ移行している。自分の目の前の課題をどう解決するのかが必要である。また、どう生きていくのかを自身で作る力—生きる力—や今後グローバル化していく世界でどう生きていくのかというような具体的な取り組みがないので示してほしい。</p> <p>・「りんくう」という名前の重み、関西空港に近いという地の利を生かすように関空祭り等にりんくう翔南が全面的に出てほしい。</p>

以外の学校行事に参加するのは楽しい(76.8%)、学校で、命と人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い(74.3%)、地震・火災などの災害の時の避難経路を具体的に教えてもらっている(72.5%)、自分は学校からのプリントや連絡を保護者にきちんと伝えている(75%)などである。

自分のクラスが楽しい・授業に集中している・行事が楽しいなどの項目は学校生活が充実していると分析できる。また家庭連絡も行き届き、学校生活の様子について家庭でコミュニケーションが図られていることは大変好ましいことである。

一方、少数ではあるがクラスが全く楽しくない・授業が分かりにくいと答えている生徒の存在も否めず、きめ細かな見守りが必要である。

2. 評価が低かった項目

「あまりあてはまらない及びあてはまらない」という否定的な項目は、地域の人や近隣の学校と係わる機会が少ない、生徒会活動は活発である、部活動は活発である、の項目であり、数年同じ傾向である。しかし昨年に比べ各項目とも10%~20%減少している。学校が積極的に生徒の意見をくみ上げる。生徒が主体となって行事の一部を考案する。生徒会が募金運動やあいさつ運動に熱心に取り組む。等の効果であると分析する。また部活動に関しては1年生が活発に活動しているがトータルのみでは低迷している。幸いアンケートの中には部活動を活性化させるための意見が多く示されているので、それらの意見を可能な範囲で反映させ部活動の活性化に努めたい。又翔南祭には地域の老人会を招待するなど地域参画型を実現させた。このような地域交流の機会は徐々に増加傾向にあり地域からの信頼も構築されつつある。今後、開かれた学校づくりをさらに推進し【地域とともにある学校】といった意識の汎用に努めたい。

3. その他

「いじめについて困っていることを先生は真剣に対応してくれる」については74%が肯定している。細部まで教員が見守っていることを概ね受け止めてくれているようだ。引き続き、きめ細かな見守りを継続させいじめの未然防止に努めたい。

●保護者アンケート

1. 評価が高かった項目

クラスが楽しいと感じているようだ(79.1%)、校則やマナーを守っている(93%) 学校行事を楽しんでいるようだ(82.4%)、子どもは教室、老化、トイレなどの清掃をきちんとしているようだ(77.1%)で、生徒と一致している。特に、命と人権の大切さや社会のルールについて学んでいるようだ(72.2%)という項目は昨年度と比較すると10%増えている。総じて家庭でのコミュニケーションが充実し、全教育活動において熱心な指導が受け入れられていると捉える。

服装や頭髪の指導がきちんとされている(77.9%)と肯定されているが、記述部分では生徒指導に関する指摘がたくさんあり、積極的な改善が求められている。

PTA 活動は活発である(60.2%)は昨年度より数値は上昇した。毎回の委員会や行事など参加者も増え活発になっている。保護者の関心度も高く喜ばしいことである。

2. 評価が低かった項目

生徒と一致しており、部活動や地域交流に関してである。様々な工夫を施し改善に向かいたい。

●教員アンケート

1. 評価が高かった項目

生徒は学校生活を楽しんでいる(93.5%)、生徒指導はきちんと指導できている(87.1%)教育相談体制が整備されている(90%)、命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会を作るよう配慮している(96.8%)、その他生徒指導について、問題行動の防止のために早期指導に取り組む(93.5%)組織的に対応する体制があること(90.3%)などの項目は評価が高かった。授業を理解している(85.7%)については、教員は高い評価だが、生徒(65.2%)や保護者(59.3%)と意識に誤差がある。現状を把握し改善に努める必要がある。

2. 評価が低かった項目

実力診断テストとその結果は、生徒の実力や進路について考えるのに役立っている(43.3%)、部活動について工夫している(45.2%)、PTA 活動に参加している(53.3%)の項目である。

実力テストは来年度からより生徒の進路実態に対応させるよう刷新する予定である。部活動に関しては活性化担当を配置するなど学校全体で活性化策を練っていききたい。PTA 活動については多くの方々に参加可能な日程を考察していききたい。

・スマートフォンは持ち込み禁止されていないのなら授業に生かしていけばどうなのか。
・生徒が将来泉南地域に残ることを前提に3年間どう過ごすのかを考えさせながら、進路指導をしてほしい。(人材育成し、泉南に戻って活躍してほしい)

2. 心安らげる安全で安心な学校づくり

・自分の体験から挨拶は大事だと感じている。人として大きな声であいさつできるようになってほしい。先生の方からも生徒に挨拶してほしい。挨拶し合えば、遅刻や懲戒も減ってくるのではないかと。

【第2回 10月18日(水)】

●今後の本校の取り組みについて

Q: 3年生の有権者教育についてどのようにしているのか。

A: 現代社会の授業のみならず各教科の取り組みに加えて3年生では投票の授業もする。

Q: 進路指導・キャリア教育での方向性はどのようにしているか

A: 本人・保護者と協力している。様々な情報を提供している。

Q: 働き方改革や土日のクラブ活動について

A: 呼びかけはしているが現状は不十分

・型にはめた道徳教育を行うのではなく、様々な体験活動を通して今までとは違う方向性で道徳教育を行ってみたいか。

【第3回 2月1日(木)】

●学校教育自己診断アンケート集計結果をうけて

・高校でもアクティブラーニングの取り組みを実施しているのか

・一般入試の対策はどのようにしているのか

●平成29年度学校経営計画評価について

1. 地域に根差した高校として、確かな学力を育成することでそれぞれの進路実現へ対応する。

・生徒の学校教育自己診断アンケートによると授業に関する項目では昨年度に比べ、肯定的回答が微増している。今後も授業改善や生徒に対する積極的なサポートに努めていただき進路獲得に向けた取り組みに期待する。

・地域の行事に本校の生徒がよく参加している印象がある(地域住民としては)。より多くの生徒に地域との交流の機会を作っていってほしい。

・通学路清掃において学校の周りを掃除するだけでなく、地域の人への「あいさつ」活動もしてみようか。

2. 思いやりの心と体力の醸成

・学力面だけでなく、社会人として貢献できる人間を育てていくために様々な教育活動を組織的に行っていただいているようだ。今後も幅広い視野で生徒に対して人間の向上につながる教育をお願いします。

・いじめ対策に学校側が取り組み、生徒もそれを感じている様子がアンケートからうかがえる。

3. 心安らげる安全で安心な学校づくり

・最近の高校生を見ているとクラブ活動や生徒会活動への消極的な姿勢が目立っているように感じる。しかし、一部の高校のクラブ活動での活躍には目を見張るものがあります。目標や指導方法によって生徒たちを引き込むノウハウがそこにはあるのではないかと考える。りんくう翔南高校でも少しでもそのノウハウを取り込みクラブ・生徒会が活性化することを願う。

・服装、マナーは確実に向上しているように思う。

・18歳で選挙権を持つようになったが学校から国民の権利・義務に対するアプローチはどうしているのか。

・通学マナー、清掃活動、あいさつなど、りんくう翔南の子どもたちならもっともっと上のレベルをめざせようと思う。そのためにももっともっと子ども達を信じて、教員・保護者が団結しないといけないと思う。

・教員の働き方改革が叫ばれる中、時間的な余裕が少ないと思いますが、生徒個々の願いや思いを受け止め、授業・学校生活に活かしていける教育を高等学校も中学校も確立していけるようお互い頑張らなければと思う。

4. 人材の育成と管理

・働き方改革、特に土日のクラブ活動についてはどのようにされているのか。

・経験豊富な教員の減少に伴い若手教員の育成は、中高とも大きな課題です。学校全体や先行きの見通しを考えられる教員育成を。

・若い先生と経験豊かな先生が情報共有や意見交換ができていないのかと感じた。

*校則見直しについての提言

12月に教育庁より校則等の点検・見直しについての指示があり、学校協議会の意見を踏まえることと意見を求めた。その指示に先立ち、7月に校長から指導方法の変更についての提言を示す。

(1) 授業中におけるトイレや体調不良による保健室への退室は遅刻指導の対象としな

府立りんくう翔南高等学校

い

理由：社会通念から逸脱しており府民への説明責任が果たせない。

(2) 遅刻指導対象者への停学処分は廃止し、権利保障（学習権の保障）の視点から懲戒処分ではなく、事実上の懲戒（教員による叱責）等の繰り返しとする。

理由：子どもの権利条約（育つ権利）・日本国憲法など権利保障の観点

(3) 再登校指導は廃止とし、権利保障（学習権の保障）の視点から事実上の懲戒（教員による叱責）等の繰り返しとする。

理由：事故の際、府民への説明責任が果たせない。

：一時的にも授業を受けさせない行為は生徒の法的地位に変動をもたらす措置であり懲戒処分と同等となり、懲戒権の乱用と捉えられても仕方がない。

：子どもの権利条約（育つ権利）・日本国憲法など、権利保障の観点

<ご意見>

- ・親としてトイレで遅刻がつくことは疑問に思う。この校則を作った時の状況を考えると先生の気持ちもわかるが時代の流れに乗り変えていくチャンスだと思う。
- ・新学習指導要領には開かれた教育課程など開かれた学校づくりの観点から学校の在り方が問われている。そのような中「今までそうであった」とか特に法を犯す特別は通用しない。校長の提言の3本で妥当である。
- ・リーガルマインドを軸に、教師の説得が大切。
- ・親として人権侵害の公立学校には通わせたくない。人権侵害のラインは難しいが。
- ・校則は何のためにあるのか。指導しやすい教員のものではなく学校の主役は生徒である。懲戒があるから駄目だというのは教育ではなく教え込んでいくのが大切。校則・ルールで縛る時代ではない。こういった学校協議委員の意見も取り入れて最終決定してほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>一 確 かな 学 力 の 育 成</p>	<p>(1) 「考える授業、参加する授業」を想定した授業改善</p> <p>(2) 特色ある教育活動の充実</p> <p>(3) 教育活動とその成果を地域に発信</p> <p>(4) インクルーシブ教育システムの推進</p>	<p>(1) ・授業の相互見学や研究授業の実施とその後の研究協議や振り返りシートのフィードバック</p> <p>・アクティブラーニング等の授業手法の研究実践。</p> <p>・授業支援や進路指導のためICT機器の利用拡大。</p> <p>・進路指導部と進学希望者支援委員会による基礎学力の定期的な測定（外部模試の実施）とその結果の教科などへのフィードバック</p> <p>・定期考査前補習や進学希望者補習の実施とともに、特講（進学補習）実施内容の充実や夏期自主勉強週間の拡充</p> <p>・大学・短大・専門学校との連携推進</p> <p>・国公立大学や難関大学合格実績の継続</p> <p>・それぞれの進路実現のサポート（一つ上の進路目標を意識）</p> <p>・英語をより身近なものとするため、国際理解教育委員会による交流行事の計画</p> <p>(2) ・指定校推薦やAO入試に頼らず、一般入試や公募制推薦入試を活用した進路実現の拡大</p> <p>・ハートフルほいく専門コース実習先の開拓等環境の準備</p> <p>(3) ・学習発表会での成果発表や普段の授業の公開</p> <p>・小中学校・地域のお年寄りなどへ本校教育活動の紹介と連携強化</p> <p>・HPの充実と教育活動通信等の作成・配布</p> <p>(4) 高校生活支援カードを入学時に新入生全員に作成させ、生徒の状況を年度当初に共有し、対象者には合理的配慮を行う。又、必要に応じて個別の教育支援計画を作成する。</p>	<p>(1) ・授業アンケート結果 平均3.2を目標とする（平均H28:3.11）</p> <p>・学校教育自己診断における授業満足度を67%とする。（平均H28:64%）</p> <p>・普総選アンケートにおいて“自分を表現する力”60%を目標とする。（H28:53%）</p> <p>“プレゼンテーション能力”60%を目標とする。（H28:54%）</p> <p>・国公立大学や公務員合格を絶やさない。（H28:公務員2名）</p> <p>・外部模試受験者数を40名とする。（H28:36名）</p> <p>・英検受験者数を30名とする。（H28:24名）</p> <p>・進路未決定者（進学浪人を含まず）を昨年並みとする。（H28:7.7%）</p> <p>・夏期自主勉強会参加生徒数を延べ40人以上にする。（H28:30名）</p> <p>(2) ・公募制推薦入試等合格者数を増加させる。（H28:3名）</p> <p>・中学校・近隣私塾へのアプローチ回数を増加させる。（H28:延べ80回程度）</p> <p>(3) ・学校説明会申し込み中学生数を増加させる。（H28:約300名）</p> <p>・交流行事の活性化を図る。授業外部公開を増加させる。（H28:2回）</p> <p>(4) 高校生活支援カードを有効活用する。</p>	<p>(1) ・授業アンケート結果、前期3.20 後期3.13 平均3.17であった。相互の授業見学や目標設定面談での動機付けにより教職員の意識が高まり若干の改善が見られた。今後ICT活用など、様々な改善策を講じて目標の達成に向かいたい。（△）</p> <p>・学校教育自己診断結果、授業満足度65.2%であった。教職員の授業改善への意識が高まり満足度が上昇した。ICTの活用などの工夫を凝らし更に満足度を高めたい。新年度にはタブレットが配置されるので有効活用したい。（△）</p> <p>・パッケージ研修の全体会は①主体的な学び②集中力③コミュニケーション力のテーマに分かれ有意義であった。※テーマを絞れたことが大きな前進と捉えている。（○）</p> <p>・普総選アンケートにおいて“自分を表現する力”65.4% “プレゼンテーション能力”63.5% 改善がみられた。（◎）</p> <p>・国立大学、公務員1名合格 今後は入学当初よりキャリアを展望させ個々の目標達成に向け意欲を喚起したい。（△）</p> <p>・外部模試受験者31名 減少 今後は進学希望者支援チームの取組を活性化させ受験学力の向上を意識させるなど、進路指導の充実を図りたい。（△）</p> <p>・センター試験受験者4名 増加（○）</p> <p>・英語検定受験者23名：1月 減少 今後は国際理解教育を更に活性化させ、万国共通語である英語力の大切さを把握させたい。（△）</p> <p>・進路未決定者11名 3月（4.9%）（○） ※進学浪人含まず</p> <p>・夏期自主勉強会参加者61名と増加した。実効性を勘案すると更なる工夫が求められる。SP会議等で検証を重ねたい。（○）</p> <p>(2) ・公募制推薦入試合格者17名 3月 増加（○）</p> <p>・中学校訪問等延べ90+校長独自8校 増加（○）</p> <p>(3) ・学校説明会参加者（学校にて） 1回—177 2回—123 3回—14（○）</p> <p>・授業公開3回、地域参画型の体育祭・翔南祭を実施イオン文化祭への参画など地域との交流事業が活性化した。（○）</p> <p>(4) ・提出率100% 生徒理解の為入学時、問題事象発生時等に欠かさず確認し有効活用している。（○）</p>

府立りんくう翔南高等学校

<p>二 思いやりの心と体力の醸成</p>	<p>(1) 人の気持ちを理解するための志学や人権教育の計画 (2) 体力強化を意識した行事などの実施</p>	<p>(1) ・志学、キャリア教育等を想定した総合的な学習の時間やホームルーム活動の実施 ・慣例にとらわれないテーマや新しいジャンルから見つめなおす人権教育 ・ICT機器（一斉配信システム、教室ディスプレイ、プロジェクタ）を利用した志学や人権教育教材活用の充実 ・生徒の人間関係の変化を見逃さず、修学支援委員会やいじめ対策委員会等を活用し教職員間でより綿密な情報共有の場の設立 ・国際理解教育委員会の活用 (2) ・学年ごとの球技大会、体育大会での競技工夫など生徒の体力強化を意識した行事などを組み入れる。</p>	<p>(1) ・学校教育自己診断による生徒の学校満足度（「自分のクラスは楽しい」を昨年度より上昇させる（H28:81%） ・人権テーマを扱ったHRや職員人権研修を例年なみに実施する。（H28年：生徒2回・教職員3回） ・対人関係に起因するトラブルを減少させる。（H28:2件） ・国際理解教育検討委員会（仮称）の会合を年3回以上実施する。 (2) ・運動能力調査の結果を踏まえ、目標を設定する。</p>	<p>(1) ・生徒学校満足度 86.8% 増加 (◎) ・人権研修など 生徒5回 教員3回 増加 (○) ・ICT機器（タブレット40台購入） ・対人関係トラブル5件：13人 増加 ※いじめ防止指針に沿った対応により重篤な状況を未然に防止した (△) ・国際理解教育委員会を設置し、国際感覚の汎用に着手した。 ① YFUとの連携で交流事業を実施した。（7/10～7/19の間交流生受け入れ） ② OFIXとの連携で交流事業を実施した。（エジプト・韓国・フィリピンより講師を招き講演いただいた）次年度は高体連レスリング部との連携にて交流事業を予定している。(○) (2) ・運動能力調査の結果を踏まえた新たな取組、計画には着手出来ていない。(△)</p>
<p>三 心安らげる安全で安心な学校づくり</p>	<p>(1)「規範意識の高い学校」をめざす (2)「美化意識を醸成し、清潔で整備された安心・安全な教育環境を実現する。」 (3)「部活動、ボランティア活動、生徒会活動などの特別活動の活性化」 (4)「組織の充実と活性化」</p>	<p>(1) ・全校一斉服装髪指導を意識させることで高校生として規範意識の再認識 ・登下校指導による通学マナーの向上 ・式典（始業式・終業式）での校歌斉唱 (2) ・学校内外美化活動の充実 ・清掃活動の充実 ・生徒保健委員会の活性化による生徒の健康意識の増進 ・喫煙・性感染症防止教育などの推進 ・防災グッズの充実、防災・防犯（避難）訓練の見直しや府や市の防災訓練への協力 ・憩いの場として、中庭（噴水）スペースの整備 (3) ・外部講師を招へいするなど部活動、ボランティアや生徒会活動の啓発 ・地域小中学校交流の一層の推進 (4) ・SP会議（将来構想委員会）の充実、学習発表会担当者会議の効率化、国際交流や人権教育を共に考える国際理解教育委員会の創設、進学希望者支援委員会の充実、フレッシュパーソンチューター会議の発展など組織の確立 ・学習指導要領の改訂に対応し、内規等の見直しに着手する。</p>	<p>(1) ・停学を伴う特別指導案件数を昨年度なみとする。（H28:14件） ・全学年総年間遅刻等件数を生徒一人当たり7.0回以下にする。（H28:11.7回） (2) ・有志生徒による一斉通学路清掃参加者を在籍数の20%にする。（H28:14%） ・喫煙防止教室、性感染症防止講演、薬物乱用防止教室等を引き続き行い肯定率を上昇させる。（H28 肯定率それぞれ93、92、97%） ・防災グッズや避難準備物を徐々に準備していく。 (3) ・部活動参加生徒率を45%以上にする（H28:43%） ・部活動について、中学校との連携を深める。 (4) 各会議を学期に1度は行う。</p>	<p>(1) ・特別指導案件18件 増加 (△) ・全学年総年間遅刻等件数、生徒一人当たり平均10.4回 減少 (△) (2) ・有志生徒による一斉通学路清掃参加者 1回 16.2% 2回 12.2% 平均 14.2% (△) ・喫煙防止室肯定率95% 上昇 (○) ・性感染症防止講演88% 下降 ※アンケートの実施時期を下降要因の一つと分析している。(△) ・薬物乱用防止教室94% 下降 ※アンケートの実施時期を下降要因の一つと分析している。(△) ・防災グッズは予算面での事情により備蓄できなかった。次年度はPTAとの連携で予算を捻出した。(△) ・近隣保育所、小学校の避難訓練のため、学校施設を提供し、連携を深めるとともに、地域とともに防災の意識を高めた。(○) ・中庭の噴水を定期的に放水し、環境整備に努めた。(○) (3) ・入部率39.3%と入部率は下降した。新年度にはクラブ活性化担当の配置やSP会議にて協議するなどして加入率を上昇させたい。(△) ・ボランティア部、放送部、等を軸に地域連携活動を11回開催した。(○) (4) ・SP会議にて課題を検証し、分掌の統廃合に着手するなど、課題解決に向け主な役割分担を決定した。分担：①内規②広報③部活動活性化④学力向上・研修等 (○)</p>

府立りんくう翔南高等学校

四 人材の育成と管理	(1) 教職員研修の充 実	(1) ミドルリーダーや外部講師により、授業改善 等の研修を実施し教職員の力量を高める。	(1) ミドルリーダーや外部講師 により、授業改善等の研修を年 間 10 回程度実施する。 (H28:6 回)	(1) ・パッケージ研修、ベネッセ研修、初任者研修、人 権研修（校長推薦 2）合計 11 回実施した。実施後 のアンケートでは肯定意見の感想が多く効果的な 研修であった。今後更に研修を充実させ学び続ける 意識の汎用と資質の向上に努めたい。 (○)
---------------	------------------	---	--	---